

学校法人 品川女子学院

令和2年度 事業報告書

令和2年4月 1日から

令和3年3月31日まで

I. 法人の概要

1. 設置する学校及び所在地

品川女子学院高等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

品川女子学院中等部 (東京都品川区北品川3-3-12)

2. 生徒数

(令和2年5月1日現在)

学校名	入学定員	収容定員	現員
品川女子学院高等部	225人	675人	616人
品川女子学院中等部	200人	600人	668人

(注1) 休学者を含む

(注2) 留学生を含む

3. 役員等

(令和2年5月1日現在)

理事長	漆 紫穂子
理事 (品川女子学院校長)	仙田 直人
理事	塚田 成四郎
理事	高須 省三
理事	富本 道宣
理事	川村 文彦
理事	牛尾 奈緒子
監事	古谷 久恵
監事	戸川 五郎

理事定数	7人	現員	7人
監事定数	2人	現員	2人
評議員定数	15人	現員	15人

4. 教職員数

(令和2年5月1日現在)

教員数 106人

(内訳)

専任教員 75人

講師 31人

職員数 18人

(内訳)

専任職員 13人

契約職員 5人

II. 事業の概要

1. 教育目標 (ミッション)

私たちは世界をこころに、能動的に人生を創る日本女性の教養を高め、才能を伸ばし、夢を育てます。

2. 教育活動

(1) 28プロジェクト

生徒が28歳の自分を思い描き、それを実現するためには何が必要か、どう行動すべきかを模索し、理想とする未来に向かっていくプロジェクトです。

中等部では、「他者」との関わりを通して自分を知るための総合学習を行い、自然な形で視野を広げていきます。また、企業コラボレーションや起業体験プログラムを実施して仕事への理解を深め、能動的に人生を設計できるようにさまざまな取り組みを実践しました。

(2) 総合学習等

中等部では、学年ごとにテーマ（1年「身の回りの問題点を見つける」2年「日本を知る」3年「未知の世界を知る」）を決め、そのテーマに基づいて年間の総合学習等の行事を構成しています。学習を展開するに当たっては、地域との連携、卒業生や保護者、外部の専門家の方の協力を得て行いました。

(3) 特別講座

大学、企業等の専門家に協力していただき、情報、科学、経済など様々なテーマで特別講座を37講座行いました。

(4) 国際理解・異文化交流

中学3年のニュージーランド修学旅行、高等部の留学プログラムは、ともに実施することができませんでした。

海外からの留学生は令和2年度2名受け入れ、在校生と親しく交流しました。

3. 生徒支援

(1) 奨学金制度

入学後の家計急変のため学業の継続が経済的に困難になった生徒に対し、授業料等を免除する「授業料等特別免除」と、奨学金を贈与する「白ばら奨学金」の2つの制度があります。令和2年度は4人の生徒が制度を利用しました。

(2) 留学奨励金制度

平成26年度より、本校の留学プログラムに参加する生徒の内条件を満たした生徒に留学奨励金を支給する制度を創設しました。令和2年度は利用がありませんでした。

(3) 留学生支援

海外からの留学生に対し、学費免除等の経済的支援を行っています。

※上記の支援制度は全額、奨学基金（3号基本金）の運用収入および後援会からの寄付で賄っています。

4. 施設・設備整備

- ・東棟の教室等6室の空調機を更新しました。
- ・教員貸与パソコンを更新しました。
- ・理科室顕微鏡を更新しました。
- ・C棟(新校舎)完成に伴い以下の備品を購入しました。
教室用プロジェクター、棚、カーテン、防犯カメラ一式等

III. 財務の概要

令和2年度の教育活動収支は当初予算を上回りました。

これは、学生生徒納付金、寄付金、雑収入が増加し、人件費、教育研究経費、管理経費が減少したことによるものです。教育活動収支差額は、予算を約2億円上回りました。

教育活動外収支は受取利息・配当金が増加したため、予算を約1千100万円上回りました。

以上により、経常収支差額は予算を約2億1千100万円上回りました。

特別収支は、有価証券処分差額、施設処分差額等が増加したため、予算を約4億6千万円下回りました。

施設・設備関係支出等を主な内容とする基本金組入額は予算を約6億円下回りました。

これらの結果、当年度収支差額は予算段階での約7億5千500万円のマイナスから約3億9千400万円のマイナスへ改善しました。